



· 语言学论丛 ·

语用、认知与日语 学习 (I)

徐昌华 ©著

Goyo Ninti to Nihongo Gakushū

Goyo Ninti to Nihongo Gakushū

Goyo Ninti to Nihongo Gakushū

Ninti to Nihongo Gakushū



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

北京市社会科学理论著作出版基金资助

语用、认知与日语学习

(I)

徐昌华 著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

语用、认知与日语学习(Ⅰ)/徐昌华著. —北京:北京大学出版社, 2006.10

(语言学论丛)

ISBN 7-301-08271-1

I. 语… II. 徐… III. 日语—研究 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 121569 号

书 名: 语用、认知与日语学习(Ⅰ)

著作责任者: 徐昌华 著

责任编辑: 许耀明

标准书号: ISBN 7-301-08271-1/H·1700

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号 100871

网 址: <http://www.pup.cn>

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62767347

出版部 62754962

电子邮箱: zpup@pup.pku.edu.cn

印刷者: 北京汇林印务有限公司

经 销 者: 新华书店

650 毫米×980 毫米 16 开本 12.75 印张 210 千字

2006 年 10 月第 1 版 2006 年 10 月第 1 次印刷

定 价: 20.00 元

未经许可, 不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。

版权所有, 侵权必究 举报电话: 010-62752024

电子邮箱: fd@pup.pku.edu.cn

序 言

1979年夏天，我第一次踏上中国的国土，最先见到的中国人就是我的“老朋友”徐昌华先生。这已经是四分之一世纪以前的事了。

那时我是应国际交流基金的邀请，作为在吉林大学和上海外语学院举办为期两个月的中国日语教师短训班的讲师来到了中国。

7月14日，在那耀日当空下的宽阔的机场一侧，闪耀着毛泽东主席的题字：“我们的朋友遍天下”。当天来北京机场迎接我们的就是徐昌华先生。

其后，我多次访问中国：我作为1980年开始的“中国日语教师培训班”（大平班）和1985年开始的“北京日本学研究中心”的客座教授来北京，还参加在北京大学举行的“2004日本语言文化教学与研究国际学术研讨会”，参加2005年秋的“北京日本学研究中心成立20周年纪念国际学术研讨会”，每次访问都见到了徐昌华先生。

不仅如此，1980年年底邀请徐昌华先生作为客座教授访问我任教的东京都立大学。其后两年间，在我狭窄的研究室里，我们合用一张旧书桌，致力于日汉对比研究。

其成果就是由徐昌华先生和我共同执笔的下列论文：

《～てもらおう和与它相对应的汉语表达方式》《日本语教育》第46期（1982）

《日语和汉语的比较句》《都大论究》第 19 期 (1982)

但是成果不仅仅是这两篇论文。有的没有立刻成形，然而我从徐昌华先生那里学到了更多的东西，并把它应用于后来的研究。

四分之一世纪就这样过去了，然而徐昌华先生的研究热情却不见衰。他吸取了日本以及世界的语言理论发展的成果，徐先生的研究经常是向前推进的。运用语用学、言语行为理论、认知语言学等，发表新的研究成果。

其成果就是这次即将出版的《语用、认知与日语学习》。书中涉及日语中许多语言现象，包括曾在东京都立大学共同研究过的授受动词句，展开了出色的记述。我相信徐先生的这一著作将会对中国日语研究的发展做出巨大的贡献。我衷心祝愿这一优秀研究书籍问世。

最近徐先生的健康状态欠佳，但他还是这样撰写新书，也参加各种研究会、学术会议，非常人所能及。

徐昌华先生心地善良，笃实敦厚，不仅在研究方面，而且在我以及我妻子沼田善子、儿子寅太郎的全家交往中，也得到徐先生一家的关照。

能结识徐昌华先生，对我的人生来说真是一种幸运。

东京都立大学名誉教授、文学博士

奥津敬一郎

2005 年 12 月

序

1979年の夏、私をはじめて中国の土を踏んで、はじめて会った中国人が、我が「老朋友」徐昌華先生である。もう四半世紀も前のことになる。

その時、私は、国際交流基金からの依頼で、吉林大学と上海外国語学院で行われた2ヶ月の中国日語教師短訓班の講師として、中国に渡った。

7月14日、強い日照りの、広い広い飛行場の、その向こうに、毛沢東主席の文字「我們的朋友遍天下」が躍っていた。その北京空港に、私たちを迎えてくださったのが徐昌華先生である。

それ以来、私は、1980年に始まった「中国日語教師培訓班」（大平学校）や1985年に始まった「北京日本学研究センター」の客員教授として、また北京大学での「2004 日本語言文化教学と研究国際学術シンポジウム」への出席、そして2005年秋の「北京日本学研究センター創立20周年記念国際学術シンポジウム」への出席など、しばしば中国を訪れているが、その都度、徐昌華先生とお目にかかっている。

そればかりではない。1980年末、私の勤務していた東京都立大学に、客員教授として徐昌華先生をお迎えした。それから2年間、私の狭い研究室で、古い机を共有しながら、日本語と中国語との対照研究に励んだ。

その成果が、徐昌華先生と私との共同執筆による次の論文と

なった。

「～テモラウとそれに対応する中国語表現」『日本語教育』46号 (1982)

「日本語と中国語の比較構文」共著『都大論究』19号 (1982)

しかし成果はこの2論文だけではない。すぐ形にはならなかったが、私としては、徐昌華先生から更に多くを学び、それをその後の研究に生かすことができた。

こうして四半世紀が過ぎたが、徐昌華先生の研究意欲は衰えを知らない。日本の、そして世界の言語理論の発展を取り込みながら、先生の研究は常に前進する。語用論・言語行動論・認知言語学などによって、新しい研究を発表しておられる。

その成果が今回の『語用・認知と日語学習』であり、かつて東京都立大学で共同研究を行った授受動詞文をはじめ、日本語における多くの言語現象にわたって、優れた記述を展開しておられる。先生のこの著書は、中国における日本語研究の発展に多大の貢献をなすものと信じる。このような立派な研究書の刊行を、心から祝福したい。

最近、先生健康状態は、必ずしもお宜しくないのだが、こうして新しく本をお書きになり、各種研究会・学会にも出席されるなど、とても常人の及ぶところではない。

徐昌華先生は、心優しく、温厚篤実、研究面だけでなく、私と妻の沼田善子、息子の寅太郎共々、家族ぐるみのおつきあいで、先生のご家族にもよくしていただいている。

徐昌華先生にめぐりあえたことは、私の人生にとって本当に幸せであった。

東京都立大学名誉教授・文学博士

奥津敬一郎

2005年12月

前 言

本书是笔者近年来研究日语语言学的成果。主要内容是语用学研究和认知语言学研究方面的。笔者从 1958 年以来研究日语语法，至今已有 40 余年的历史。回顾起来大体经历了这样的轨迹：病句研究——句法研究——对比研究——语用学研究——认知语言学研究。在研究言语行为、表达意图的过程中，我深感语义、语用研究离不开认知，语用和认知必然结合在一起。于是我就开始学习认知语言学的理论和方法，并尝试运用于日语研究，取得了一些成果。

认知语言学是近年来兴起的一个新的学派或思潮。“认知”就是人类认识世界、组织世界的高级心理活动。语言是人类思维的工具，也是人类认知世界的工具。人们认识世界、观察世界时受到某种认知方式或思维模式的制约。句法结构反映人的认知方式。沈家煊指出“‘认知语言学’不是一种单一的理论，而是代表一种研究范式，其特点是着重阐释语言和一般认知能力之间密不可分的联系。”（语言的认知研究——认知语言学论文精选序）

本书的特色：既是一部运用语用——认知语言学理论研究日语的专著，又是一本面向日语专业学生的、理论与实际相结合的日语语言学参考书。吸收了国内和日本语言研究的一些新成果，同时阐发了笔者的独到见解。

全书为两卷本，卷 I 由徐昌华执笔，卷 II 由李奇楠执笔。

卷 I 由五章构成：

第一章言语行为：对责备语、贬损语、劝说话进行了深入的考察，以《围城》（日译本）为例阐述间接言语行为的运用，并归纳了其中的语用策略。

第二章话语的理解：概述了有关日语话语理解应该注意的问题；选择一些特定的语言形式，深入浅出地阐释其语义和用法，有助于提高对话语的理解能力。

第三章模糊语言：阐释模糊语言与言外之意的关系，还着重探讨了数量词语的模糊性。

第四、五章是从认知角度研究日语，涉及外部世界认知，如空间认知、时间认知、对人认知及其日语表达；同时论述了认知模式及其日语表达，从认知角度对被动句、自动词带宾语、人称指代等作了具有解释力的说明。

卷 I 中三分之一文章曾以论文形式公开发表。在撰写论文过程中积累了经验，产生了写一本专著的愿望。经过较长时间的学习、思考，确定了全书的框架和各个章节的主要内容，然后写成初稿。接着，集中一段时间进行修改。除了文字、体例上的修改外，把部分用日文写作的初稿译成中文。

卷 I 初稿是著者独立完成的，在修改过程中得到合作者李奇楠博士的大力协助：通读书稿全文并提出修改意见，提供部分例句，承担本书电子版初稿的制作和一些事务性工作。承蒙奥津敬一郎先生为本书写序言，深感荣幸，谨致谢忱。部分用日文写作的书稿，在几位博士潘钧、许宗华、李奇楠、朱立霞和女儿培玮的协助下译成中文；王静同学协助将部分书稿录入电脑。一并表示衷心的感谢。这里我还想说几句话。这本书得以出版要感谢家人的支持和鼓励。年迈的父亲殷切期待给了我力量，子女及时购买所需图书资料为我提供了方便。尤其是我患有帕金森病 15 年来，老伴童淑英的精心照料和辛勤劳动，使我的病情稳定才有可能从事科研工作。可以说没有她的操劳、支持和帮助，就没有这本

书。

书中不足、不妥之处，敬请读者批评、指正。

最后，谨向北京社科理论著作出版基金办公室、北大出版社领导和许耀明先生表示衷心的感谢。

著 者

2006年7月28日

目 录

序言	i
序	i
前言	i
 第一章 言语行为	1
第一节 贬损语与责备语的关联及区别	1
第二节 关于责备语的语用考察	8
第三节 关于劝说语的语用考察	15
第四节 日译本《围城》中的间接言语行为	22
 第二章 话语的理解	35
第一节 日语话语的理解概述	35
第二节 关于“～でありたい”“～であって ほしい”的异同	44
第三节 关于“名詞句を言う”	50
第四节 关于“連体修飾節＋人名詞だ／である”	55
第五节 形式动词“いる”的语义和用法	59
第六节 对义关系的语言表达形式	66
第七节 浅谈一部分助动词结句	72
第八节 关于“重言表現”	76

第三章 模糊语言	82
第一节 模糊语言与言外之意	82
第二节 数量词语的模糊性与数字的谐音	89
第四章 外界认知与日语表达	95
第一节 日、汉语中“上 / 下”的隐喻义	95
第二节 “場合”与语法化	105
第三节 关于对时间的认知方式	111
第四节 “先”与外界认知	117
第五节 对人认知与日、汉语授受动词对比	122
第六节 关于恩惠授受的思考	131
第七节 日汉同形词	136
第五章 认知与日语学习	144
第一节 关于两种认知模式	144
第二节 人称指代的语用分析	154
第三节 自动词带宾语问题	158
第四节 从认知看日语被动句	164
第五节 关于终助词“と”	171
第六节 日语形容词的表情功能	174
第七节 关于“连语”和“词组”的思考	178
语言学术语中日文对照表	184



第一章 言语行为



第一节 贬损语与责备语的 关联及区别

一、引言 ◆◆◆

笔者数年前曾经研究过“ほめ言葉”，是从言语行为的角度考察的，而当时所引出的一个问题，就是“ほめ言葉”的对义词是什么？根据调查，主要有以下三种处理方式。

1. ほめる←→貶す
2. ほめる←→叱る
3. ほめる←→貶す／叱る

笔者同意其中的3。在阪田、远藤合编的《日本語を学ぶ人の辞典》中明确标示出“ほめる”的反义词是“貶す”和“叱る”。

本文拟运用言语行为理论，探讨一下与“ほめ言葉”处于对立状态的贬损语和责备语之间的关联以及使用上的区别。

二、什么叫“貶す”和“叱る”？ ◆◆◆

笔者参考了小学馆出版的《国語大辞典》中对二者下的定义。不过笔者对此稍加修正。

“貶す”是“よい点は無視し、わざわざ悪い点ばかりとりあげて非難する。くさす。”

“叱る”是“目上の者が、目下の者のよくない点を見て、怒って威圧的にとがめる。”

关于“貶す”的定义可以原样采用，而关于“叱る”的定义笔者愿听取日本同行的建议，删去“威圧的に”这几个字。

两者相通的地方在于否定对方或特定的人的不好的方面，予以责怪。可以认为，二者相补，共同构成“ほめ言葉”的对义词。在此意义上，本文将二者合二为一，称之为“‘貶し・叱り’言葉”。汉语译作“贬损语”。

本文运用言语行为理论，将探讨的重点放在言语行为上。比如，“貶す”这个语言行为可通过以“貶す”为代表的几个施为动词来表达；在没有使用施为动词的场合下，可采用其他某种语言形式。那么看一下有关“‘貶し・叱り’言葉”使用的实例吧。

1. “贬损语”：

使用“貶す”等施为动词的场合：

- (1) その、よその子は、赤松小学校のほうを指さしながら、こう大声で、けなした。「赤松学校、いい学校！入ってみたら、ボロ学校！わーい！！」

(窓ぎわのトットちゃん)

- (2) 純：人の仕事を平気でけなすし、父さんのやってることについてだって、よそ行ってあちこちで悪口いいまくるし。

(北の国から'98時代)

- (3) やがて鉢巻を外して、話を始めた。始めるが早いか、今の日本の作家と評家を目の玉の飛び出る程痛快に罵倒し始めた。代助はそれを面白く聞いていた。然し腹の中では、寺尾のことをも誰もほめないの、其対抗運動として、自分の方では他を貶すんだろうと思った。

(それから)

(借自桥本论文)

- (4) 「あなたは気楽でいい」と真面目に云う。「そうですねうか」と真面目に答える。誉められたのか、腐されたのか分からない。気楽か気楽でないか知らない。気楽がいいものか、わるいものか解し難い。

(虞美人草)

(借自桥本论文)

- (5) ほかの人や者を貶したり否定したりして、間接的に相手に対するほめことばにする。

(ほめことばの日・英の比較)

- (6) しかも、妻子ある若い男の遊び相手に貶められてもお。

(オリオン座からの招待状)

- (7) (あの男は) 僕を咎める気持ちをなくした。

(死者の奢り)

没有使用施为动词的情况:

- (8) 「君には何一つうまくできないんだな。このごろの学生は決まってそうだ。」と管理人がいった。

(死者の奢り)

下面的例子是从《英文 实用日本語》中借来的, 出自第 12 课一篇题为“ほめる・けなす”的会话文章。

- (9) 妻 : 変ね。課長のお宅で晩御飯ごちそうになったんじゃないの。

中村 : うん。でも、油っぽかったり、しょっぱすぎたりろくなものがないんだよ。

- (10) 中村 : お宅の御主人だっかんろくじゅうぶんで、堂々としていらっしゃるじゃない。

広田 : 中年太りでおなかが出てるだけよ。年寄りくさ

くて、いっしょに歩く気もしないわ。

例(9)是贬低在课长家吃的那顿饭,例(10)是妻子贬低丈夫外貌的实例。

2. “责备语”:

使用“叱る”等施为动词の場合:

(11)「やめろよ、良枝」

と祐次は叱った。

(オリオン座からの招待状)

(12)「おっちゃん、しらへんかった。あほやな」

ばか、と祐次はもういちど良枝を叱った。

(オリオン座からの招待状)

(13) 食堂の店員に叱られた。

(角筈にて)

(14) トットちゃんは、……大きな声で、くり返し、こういった。

「ロッキーを叱らないで！ロッキーを叱らないで！」

(窓ぎわのトットちゃん)

(15)「恭ちゃん、これからうちの子になるんだって」

「ばか言うんじゃない」っと、伯母が強い声で叱った。

(角筈にて)

(16) ……おつちゃんは俺らのために旗振んなさってんだから、しからんでくれしょや。な、お婆ちゃん。

(鉄道員)

(17) 舷に叱られて、なずなはがっくりと肩を落とした。

(私の青空)

(18)「馬鹿ッ。何を考えてんのッ」

なずなは思いっきり叱ったが……

(私の青空)

对类义词进行语义分析固然十分有益，但笔者暂且没有余力全面铺开。这里试探讨一下“叱る”和“怒る”在使用上的区别。野元认为，“大きな違いは、しかるにはしかられる者などが必要なのに対して、おこる・いかるは必ずしもそれを必要としない点にあると思います。ということは、しかる方は、ある効果・効用を期待しての動作である、ということの意味します”。请看下面用例。

(19) 「痛くなんかない！ロッキーの事、怒らないで！怒らないで！」

(窓ぎわのトットちゃん)

(20) パパとママに……「怒らない」と約束した。

(窓ぎわのトットちゃん)

(21) トットちゃんは、ロッキーに、「もう大丈夫！誰も怒っていない」ということを、早く知らせたくて、いそいで家に入った。

(窓ぎわのトットちゃん)

上述句子中的“怒る”几乎可以和“叱る”互换。“怒られる者”也明确地表示了出来。正如前田指出的那样“おこる気持ちは顔に出るのが普通であるが、言葉でおこることにもなる”

(22) 「校長先生が、怒っている」

(窓ぎわのトットちゃん)

(23) だって、校長先生が怒るなんて、それまで知らなかったから、とっても、びっくりしたからだった。

(窓ぎわのトットちゃん)

(24) その怒ってる声に、トットちゃん達の受け持ちの女の先生の、答えるのが聞こえた。

(窓ぎわのトットちゃん)

(25) トットちゃんには、どうして、校長先生が、こんな